

<p>タイトル</p>	<p>2024 年度 共同教育学部国語専攻「学校推薦型選抜」</p>
<p>評価の ポイント</p>	<p>【小論文】</p> <p>筆者の見解に対して、自分の考えを具体的に述べることを求めた。課題の理解力・論理的な思考力・文章表現力などに加え、「批判は具体的にどう行うべきだろうか」という筆者の問に対して、本文を踏まえた的確な回答を提示できるかを評価の対象とした。</p> <p>評価にあたっては、以下の点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文の内容をよく理解し、設問意図に沿った解答ができているか。 ・問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。 ・解答の記述に当たって正しい論理の運びができているか。 ・解答の論旨が明快であるか。 ・適切な表現ができているか。誤字・脱字はないか。文章に乱れはないか。 ・制限字数を満たしているか。極端に短い答案になっていないか。 <p style="text-align: right;">古田徹也（2021）『いつもの言葉を哲学する』朝日選書 845 pp. 135-138</p> <p>【小論文解答例】</p> <p>「炎上」という言葉の現在の用法は、各種のメディアで発信された誰かの言動に対して、当該の言動が筋の通ったものや正当なものであろうとも、逆に、筋の通らないものや不当なものであろうとも、ネット上で非難や誹謗中傷が殺到することを指す。一方、本来の意味の批判は、「内容の吟味」、「物事に対する批評や判断」、「良し悪しや可否をめぐる議論と評価」といった意味を含んだ、問題を整理し、吟味し、理解を深め合うための行動である。</p> <p>私が正当な批判を行うために、建設的な議論の場であることの共通認識を作ること、批判する相手の表現や意図をよく理解して批判すること、批判する相手の人格を尊重し表現に気を付けることの3点が考えられる。</p> <p>まず、批判が攻撃や非難と受け止められてしまうのは、同調の空気が支配的な場合が多い。和を重んじる場面と、批判的検討が必要な場面を切り分け、これから意見をよりよくするための議論をしようと言明し、お互いに納得したうえで本来の批判を始める。</p> <p>相手の主張を理解せずに言葉尻を捕らえて批判しては、的外れな攻撃になってしまうため、相手の意図を確認したり、わかりにくいところは質問したりしながら、対話的に批判を進める。</p> <p>表現の上でも、相手の意見に対して、賛成できるところは賛成を示</p>

し、よいところはよいと認めることから始め、反対のところには具体的、客観的な根拠をあげて反対の意を一意見として示すことが考えられる。(596字)

【面接】

調査書・志願理由書の内容を踏まえて、大学で学ぶ姿勢と国語教育に対する探究心について質問した。また、故事成語の原典を音読させた上で、その内容や背景に関する質問を行い、これに対する返答の的確さや表現の適切さ等を評価した。

評価にあたっては、以下の三点を特に重視した。

- ・教職に就く強い意志を持っているか。
- ・質問をよく理解した上で返答しているか。
- ・国語科で育成が目指される資質・能力を十分に備えているか。